

令和4年10月10日発行

さんあい広報タスク

児童養護施設さんあい

一時保護所オリーブ（男子・女子）

自立援助ホーム三愛子ひつじ寮



## 「風通しのよい施設」



理事長兼施設長 高瀬 一使徒

よく「風通しのよい施設」という言葉を耳にします。これは主に施設長やリーダー、ベテラン職員に対して若い職員が自由に意見を言え、その意見が反映されるような施設をイメージして語られることが多いと思います。しかしこのイメージ通りに下位の職員の声を中心に施設を運営していたのではかえって現場は混乱してしまい、子どもたちに安心・安全な生活を提供することが困難になってしまうことがあります。特にコロナ禍のような、突然緊急事態が生じるような状況では、むしろ上位の者がしっかりとした対応方針を迅速に現場職員に指し示すことが大切です。現場はその方針に従って動き、不具合や改善点があればその都度上げて行くことが求められます。つまり「風通しのよい施設」では上と下の両方向からの意見が流れるのです。優しいリーダーの中には職員の声に耳を傾けますが自分の意見を言えない方もいます。これでは風通しのよい施設とはなりません。また風は左右からも入れる必要があります。これは子どもたちや児童相談所やその他関係者からの意見かと思えます。自分の方針を持ち様々な意見を聞き、最終的にリーダーは与えられている立場と責任で決定を下して行かなければなりません。これがリーダーシップです。施設ばかりでなく、日本全体にこの責任を持って決定してゆくリーダーシップが欠如しているように思います。風通しをよくすることは、養育の現場でも同じです。子どもは「参加する権利」があります。ですから大人は意見を表明する機会を確保してあげなければなりません。同時に子どもには「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」があります。職員はそれらの視点に立って自分の意見を子どもにしっかりと伝えなければなりません。そして、ある時は子どもの決定に委ね、ある時は職員が決定してゆくのです。子どもの決定に委ねることがよい養育とは限りません。大切なのは双方向の風通しをよくすることです。

子どもたちは、元気に二学期を過ごしています。夏休み中は、数人の児童と職員が陽性又は濃厚接触になりましたが、その都度隔離や行動制限を徹底してクラスター感染は防ぐことができました。また特別外出も二つのホームを除き、それぞれが予定通りに実施することができました。休み中大きな事故もなく安全安心で子どもたちが楽しく過ごせたのは、神様のお守りと職員の献身的な働きがあったからです。これからは職員が休める時にしっかりと休みをとって年度後半を乗り切って欲しいと切に願っています。

## さんあいのグループワーク

グループワークは子どもも職員も普段体験できない達成感や感動、冒険などを通して人としての成長を期待するものとしています。

**小学生グループワーク** 小学生は9月23、24日と秩父のオートキャンプ場で1泊2日の楽しい時を過ごしました。到着すると子ども達ははじめてのバンガローに大喜び。BBQでは職員と協力してそれぞれの役割を一生懸命行ない、みんなで楽しく食事をしました。その後は花火をしたり一緒に大きなお風呂に入ったり、寝る前にレクをしながらお菓子を食べたりと楽しく過ごしました。2日目は前の晩からの雨が続き、当初は川遊びを予定していましたが川の博物館に行くことになりました。お弁当を食べ、博物館をまわった後は天気も回復したので川の博物館内にある水上アスレチックや手漕ぎボートなどでたくさん遊びました。天気の悪い中でしたが、子ども達のたくさんの笑顔や、いつもは見られない子ども達の一面を見られたのは、職員にとってもとても良い時間となりました。



**中高生グループワーク** 8月12日に中高生を対象としたグループワークを実施しました。東松山市にある平和資料館の見学に始まり、川遊び、BBQ、夜の時間には、“当事者の体験談”とし他県の児童養護施設を退所後に大学合格を果たし、卒業後の今は自立援助ホームで働いている方の話を聞く場を設けるなど、中身の濃い1日を過ごす事が出来ました。普段の生活とは少し離れてリフレッシュしつつ自分自身を考える機会となりました。子ども達それぞれが主体的に行動し、他の子を思いやっている素晴らしい姿を沢山見ることができました。平和資料館、当事者の体験談では、深く理解できなくても1人ひとりがなにかを感じることができ、今後につながるものを得られたように感じます。今回の経験が将来どこかで活かされることがあればとても嬉しく思います。



埼玉県平和資料館



くらかげ清流の郷川遊び



当事者の体験談

## 食育タスク：インスタントラーメン作り

8月25日に食育タスクで小学校高学年を対象にして、インスタントラーメン作りを行いました。子ども達と一緒に近所のスーパーへインスタントラーメンを買いに行き、各々好きなラーメンを選びました。一人一人レジに並び自分でお会計にも挑戦しました。普段なかなかできない経験を行うことが出来て、子ども達にとっていい機会になったと思います。インスタントラーメン作りではハムやキャベツ、卵などを準備し、栄養士から作り方を聞きながら自分の好きな食材を入れオリジナルラーメンを作りました。男の子と女の子と一緒にご飯を食べる機会が少ないので、年が近い子同士で楽しくお喋りしながら食べている姿をととても微笑ましく感じました。これからも食育タスクとして、子どもが楽しみながら食を学べるよう工夫していきたいと思っています。



## 緊急一時保護ユニット：部屋外出

9月9日に、男の子・女の子2部屋合同でラウンドワンに行きました。普段あまり外出機会がない子どもたちは大喜び！広い屋内運動場では卓球やローラースケート、射的ゲームなど各々好きな遊びを楽しみました。昼食は食べ放題の“すたみな太郎”に行きました。焼肉をメインに、それぞれの好きなものを何度もお替りしたり、思う存分デザートや大好きなジュースを堪能したりと、良い思い出となりました。様々な理由で入所している子どもたちにとって、いろいろなことに挑戦したり経験したりすることは子どもたちの成長にもつながる素敵なことです。今後も機会があれば積極的に新しい体験をさせてあげたいと改めて感じました。

## 夏休み！楽しかった特別部屋外出！

夏休みには4部屋が1泊2日の特別部屋外出に行きました。残りの2部屋は10月に予定しています。

### いちょう

8月17、18日に神奈川県八景島シーパラダイス、横浜中華街、カップヌードルミュージアムに行ってきました。シーパラダイスでは、魚だけでなくアトラクションも楽しみ、中華街では美味しい中華料理を沢山食べ、カップヌードルミュージアムではカップのデザインも中の具材も自分のオリジナルのものを作ることができてみんな満足そうにしていました！いちょう全員で楽しい思い出を作ることができました！



### ねむのき

待ちに待った特別外出！ねむのきは8月8、9日に茨城県に行ってきました。海、アスレチックのフォレストアドベンチャーでは、みなへろへろになるまで身体を動かしました。夜はコテージでBBQ。お肉や海で獲ったハマグリを沢山食べました。帰りはバイキングに行き、目を輝かせながら沢山食べていました。子ども達の沢山の笑顔と新たな一面が見られ充実した二日間でした。



### ぽぷら

8月4日の1日目はららぽーとで映画を観て、夜ご飯は串カツ食べ放題を堪能しました！



お腹がいっぱいになった後は川越のホテルに移動してゆっくり過ごし、夜更かしをして皆で沢山お喋りをして盛り上がりました。2日目は川越散策と西武園遊園地です。初めて訪れる川越の街に興味津々の子ども達でした。西武園遊園地で子ども達が特に楽しみにしていたのがゴジラのアトラクション。迫力満点で子ども達も職員も一緒にとっても楽しめました！



ポプラには今年度で退所になる子がいるので最後の楽しい思い出の1つになってくれると嬉しいです♪

### かしのき

7月27、28日に今年も男子6人、新潟の海に行ってきました。いつもは携帯ばかりの高校生も海に着けば真っ先に走り出し海を満喫。宿泊先には普段目にしない2段ベッドが置かれていたため小さい子は大喜び。昇り降りを繰り返していました。年齢差が大きいので普段は小さい子のうるささに高齢児が苛々していますが、外出時は高齢児が小さい子の面倒を見たり、BBQの手伝いをしたりと大活躍！優しさを感じる2日間でした。



## アニマルクラブの今後の予定を紹介します

【わんちゃんとお泊り会】11/5～6と11/12～13  
交流ホールで2匹のわんちゃんとお泊りします。  
夜の散歩にも行きます。

【動物愛護フェスティバル参加】11/14  
埼玉県動物指導センターへ行きます。

【パティオまでわんちゃん達とお散歩】12月  
遊具で遊んだり、自動販売機でアイスを買って皆でおやつタイムを過ごします。

【盲導犬体験】10/10  
盲導犬の働きについて学び、体験します。

## タイの施設訪問

高瀬施設長

さんあいでは、日本がまだ貧しかった頃、海外からの支援によって多くの児童養護施設が生まれ出された児童福祉の歴史を深く受け止め、また法人理念である「あなた自身を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という聖書の教えを海外でも実行するために2016年の設立40周年を契機にタイの児童養護施設を支援してきました。そして過去に2度さんあいの児童と職員がタイに行き、当地施設の子どもたちと交流の時を持ちました。コロナ禍で2020年より支援と交流は中断してしまいましたが、今年7月より日本からタイへの渡航が大幅に緩和されましたので、交流と支援を再開するため7月29日～8月3日までお休みをいただき、施設を訪問してまいりました。そして「ハザー実行委員会」からの支援金と玩具や文房具等を寄付することができました。滞在中は当地の友人たちに支えられ、事故やコロナ感染から守られ無事にチョンブリ県とチェンマイ県の5つの施設を訪問することができました。感謝を持ってご報告いたします。



タイでは行政が運営する大規模な施設と民間の運営する比較的小規模な施設があります。民間施設は、病弱な子を受け入れたり山岳少数民族の子を受け入れたりそれぞれに特徴があります。しかし行政からの財政支援はありません。従ってどこの施設も支援者からの寄付や食べ物を自給したりして運営しています。コロナ禍で支援金が減少しており、十分な職員が雇えずボランティアや年長児が年少児をお世話することで日常生活を回しています。養育の知識や技術には課題がありますが、子どもに対する熱意や家庭的処遇等、私たちが学ぶべき点は沢山ありました。

さまざまな事情によって家庭で生活できないために社会的養護を必要とする子どもたちの数は全国で約 4 万 2 千人。その多くは、さんあいのような児童養護施設や、乳児院といった施設で暮らしています。施設以外には、地域で暮らす里親の方々の家庭で家族の一員として暮らしている子どもたちもいます。

平成 28 年に成立した改正児童福祉法では、家庭と同様の環境における養育を推進（里親等への委託を優先して検討）することが明確化されました。厚生労働省は毎年 10 月を「里親月間」と定め、都道府県等とも協力しながら、里親委託の飛躍的な拡大に向けての全国的な運動を展開しています。

里親制度の推進のために児童養護施設と乳児院には里親支援専門相談員（以下、里親 SW）が配置されるようになり、さんあいでも 1 名の専任職員がこの役割を担っています。里親 SW の主な業務は、新規に里親になって下さる方の開拓、短期間子どもを受け入れて下さる週末里親の調整、里親への研修、里親家庭との相談や里親会サロンへの参加、委託後のアフターフォロー、里親委託の推進です。これらを見守る児童相談所の担当者と共に進めています。埼玉県では、里親 SW の連絡会を立ち上げ、「定期連絡会・研修」「啓発活動・情報収集と分析」「広報紙作成」をしています。啓発活動・情報収集と分析では、里親制度に関するパネル展示を埼玉県内で展開しています。



啓発活動でお声を掛けると「里親さんって立派な人がやってるんでしょ、私にはできないよ。」と返答される方が少なからずいます。実際の里親さんたちは子ども好きな、そして子ども達の思いに共感をしたいと願う、地域で暮らす普通のご家庭の方たちです。子育ては実子でも里子でも家族だけで抱え込むとたいへんなものです。そこで、里親さんたちの子育てを里親さん同士のつながりや、地域の理解者、行政機関などが一緒になって進めていけるよう支援をしています。

里親支援専門相談員・野田智彦

## コラム： 子どもの権利擁護 第3回

縦割り行政の中で、各省庁にまたがっていた子どもに関する政策を一元的に対応する機関として「こども家庭庁」を設置することが本年 6 月に決まりました。そして、子どもの権利を守るための基本理念を定めたこども基本法も同時に成立しています。この基本法は、日本が 1994 年に批准した子どもの権利条約に対応するための国内法という位置づけです。

基本法は、18 歳という年齢で区切らず、心身の発達の過程にある人を「こども」と定義。すべてのこどもは個人として尊重され、基本的人権が保障される、教育を受ける機会が等しく与えられる、自分に関わることに意見を表明する機会が確保される、といった基本理念にもとづき、子ども政策を進めることが明記されています。改正された児童福祉法の内容もこれに呼応しています。

成人年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられた一方、児童養護施設など社会的養護の下にある児童の中には 18 歳の年齢を超えて支援を継続することが望ましいとされるケースもあります。しかし定員が常にいっぱいであるさんあいのような施設には物理的なスペースも、そのために支援をする人手も十分ではありません。行政との対話を続けつつ、子どもの最善の利益を追求するために何ができるか、何をすべきか考えていきます。

施設長補佐 平本 実

## 男の子オリーブ

4月に設置後、6月には定員の6人になりました。コロナ禍で、外出はあまりできませんが、先日はドライブを兼ねて休日買い物に出かけ、お菓子や玩具を買っています。年齢は様々でテレビを見たり、庭で土遊びをしたり、たまにはじゃれて遊んでいるうちにすれ違って口喧嘩をすることもありますが、みんなで笑いながら食事を食べたり、玩具を譲り合ったりする場面もあります。オリーブは今日も元気で溢れています。

(羽根田)

## ガーデン・パーティー

夏休みに入る前の恒例行事、ガーデン・パーティーを今年も晴天の下、開催することができました。ガーデン・パーティー開宴前には交流ホールで第三者委員の森さんから、子ども達の権利や、苦情解決などのお話を真剣に聞き、その後会場の中庭へ！連日の猛暑でしたが、陽が沈むと空気が爽やかになり過ごしやすくなります。女の子は浴衣、男の子は甚平に着替えてお祭り気分。部屋対抗のゲームは流しソーメンならぬ流しデザート。流れてくるフルーツやゼリー、ミニトマトなどを箸で懸命につかみ、点数を競いました。日没後はお楽しみの花火に歓声を上げ、お腹も心も大満足でした。

(平本)

## いちょうの広場



## 子ひつじ寮

1学期終了後、お疲れ様会として個別に食事会に出かけました。Aさんはファミレスが初体験でした。「1品で1000円もするんだ」と驚きましたが、すぐに「1人いくらまでですか？」と金額を聞いて気を遣っている様子。「ご褒美には慣れていない…」と少し照れ臭そうにしながらも、メニューを見て、お料理とデザートを選びました。終始とても嬉しそうで、良い夏休みの思い出になったようです。

(小澤)

## アニマル・クラブ・ドッグラン

アニマル・クラブの子ども達は、8月8日、15日、9月3日と3班に分かれて、本庄総合公園内にあるドッグランに行ってきました。午前9時に公園へ向かったのですが既に気温が高く、ポニーちゃんとトトちゃんはややぐったり気味。それでも子ども達は暑さに負けず散歩をしたり、公園の遊具で元気に遊んだりしていました。子ども達が遊んでいる様子が気になったのか、途中からは2匹も公園内を元気に走り回っていました。こまめに水分補給、日陰で休むなどの暑さ対策をして、元気に楽しく過ごして帰園することができました。(中嶋)

## ラフティングしてきました！

職員のメンタルヘルスケアの取り組みは今年で2年目となります。普段の仕事を離れ、心も体もリフレッシュするために施設が全面的にバックアップし、様々な企画を立てます。今回企画したのはラフティングです。8名の職員で群馬県水上に行ってきました。

川は穏やかな箇所もあれば、荒い箇所もあり、心身共に心地良いリフレッシュとなりました。担当部署や年代についても様々ですが、8人全員で一斉に大きな岩の上から飛び込みをしたりと、心は全員20代になった気がします。(高柳)

## シネマさんあい

夏休み、ワクノビ・クラブとアニマル・クラブ合同で映画会「シネマさんあい」を実施しました。アニマル・クラブと共催ということで選んだ映画は、「犬」をテーマにした3本。それぞれ幼児、小学生、中高生と対象年齢を分け、誰もが参加できるようにしました。

メンバーは、映画上映前から当日も準備に携わり、自分も楽しみながら、他者にも楽しんでもらうという体験をしました。

(平本)



いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は右記の口座にお願いします。\*お名前をお入れください\*

埼玉りそな銀行 岡部支店(普)

0058888

## 編集後記

最近「線状降水帯」という気象用語をよく耳にするようになりました。用語自体は以前からあったようですが、一般的に認知されるようになったのはごく最近の事だと思います。用語が認知されるきっかけとなったであろう各地での集中豪雨被害には心が痛みます。9月に入り、台風の心配をすることも増えました。自然現象は人間の力ではどうする事も出来ませんが、たくさん子ども達を預かる施設として子ども達の安心・安全を守るために「防災」について他人事ではなく、また、「防災の日」だけではなく、常に考えていなければと改めて感じます。

(広報タスクチーム一同)